

# 水道事業の技術継承と 人材確保・育成について ～水道事業を**将来**に引き継ぐために～

岩手県矢巾町上下水道課  
【鎌田大樹】

## 岩手県矢巾町上下水道課

- \* 給水人口約25,000人。
- \* 県庁所在地である盛岡市の南隣町で、市のベッドタウン化。
- \* 県内最大の医療病院である岩手医科大学が盛岡市から移設されることもあり、県内では数少ない人口微増の町。
- \* 浄水場は2つありどちらも急速ろ過方式、原水はすべて井戸水。
- \* 使用薬品は、次亜およびPACのみ。
- \* 職員19人(うち非常勤5人)

上水道係(上水施設維持管理)	6人
経営係(料金徴収)	7人
下水道係(下水施設維持管理)	5人
技術管理者資格取得者	6人



## 【鎌田】が考える 水道事業の持続に大事なこと

- \* 経験の浅い職員を人材育成すること
- \* 使用者(住民)に水道事業の実情を知ってもらうこと
- \* ICT (Information and Communication Technology) システムを活用すること



## 経験の浅い職員を 人材育成すること

- \* 積極的に研修に出し、効率よく基礎を習得させる。  
→職員一人あたりの年間研修費予算は約30万円!!
- \* 業務を段階的に経験させて、オールマイティにこなせる職員を育成。  
→業務の視野を広げていくことで、技術継承をスムーズに。
- \* 単独事業体だけで人材育成は不可能。他の事業体などと積極的な交流を図る。  
→岩手紫波地区水道事業協議会を定期開催。  
→横浜市水道局・横浜ウォーターと三者協定を締結。



## 住民に水道事業の 実情を知ってもらうこと

- \* 住民(使用者)は水道に対し、あまり関心(知識)がない。  
→一度や二度のPRでは効果はない。  
→水道サポーター。
- \* 関心を持たない人々の意見をどのように確認するか。  
→矢巾版プラーヌクスツェレの実施。
- \* 関心を持った住民は、最大の理解者になり得る。  
→信頼を得るためには、役所にとって都合の悪い  
情報も提供。  
→水道イノベーション賞。

合意形成



## ICTシステムを活用すること

- \* 特殊事例も音、写真、動画で記録することで、ナレッジバンクに。  
→神様が得た知識・経験を可視化。これからは他の職員にも共有化。
- \* クラウドですべての職員がほぼリアルタイムに情報を得られる。  
→必要な情報をいつでも、どこでも。
- \* 施設・設備の適切な更新時期の判断に。  
→設備台帳+日常の点検データの蓄積で  
判断を簡単に。



### データ入力されている設備の一例



## ICTシステムを活用すること

- \* 導入時の苦労話
  - ①必要性を認識したきっかけは電気部品の故障。
  - ②浄水場看視員からの猛反発。
  - ③完璧を求めない。
- \* 現在進行中
  - ①設備台帳を見直し、マイクロマネジメントを実践。
  - ②蓄積されたデータを統計データに自動的に反映させ、統計業務などの作業効率化を図る。



## 【鎌田】が考える 水道事業の持続に大事なこと

- \* 経験の浅い職員を人材育成すること
- \* 使用者(住民)に水道事業の実情を知ってもらうこと
- \* ICT (Information and Communication Technology)  
システムを活用すること

つまりは、、

透明な**水(道事業)の可視化!?**

## 【鎌田】が考える 水道事業の持続に大事なこと

ガチガチに緊張しました、。



ご清聴ありがとうございました。